

### ●日本の子どもたちへ オノ・ヨーコさんからメッセージ



◆オノ・ヨーコ 1933年2月18日、東京生まれ。学習院大学、アメリカのサラ・ローレンス大学で学ぶ。1960年から前衛芸術家として活躍。ニューヨーク在住。

3月11日、東日本をマグニチュード9.0の地震が襲いました。大きな津波が町をのみ込み、たくさんの方が被害を受けました。死者・行方不明者は2万8000人を超え、終わりの見えない復興作業が現在も続いています。

いま多くの人たちが、自分にできることはないかと考え、動き始めています。世界を舞台に創作活動を続ける芸術家のオノ・ヨーコさん(78)もそんな一人です。アメリカ同時多発テロから10年がたつニューヨークから、日本のみなさんへメッセージが届きました。

## 夢を持とう!

毎日、朝、起きたときに、生きていることに感謝しましょう。

昼間、目に映ったもの、みんなに「愛しているよ」と、心の中で言っておいてください。

愛されたものは、みんな、あなたに感謝します。

感謝されながら生きるのは楽しいことです。

自分のできる限り、なにかよいことを一日にひとつしましょう。

簡単なことでいいのです。

ただしよんぼりしている人に微笑んであげるだけでいいのです。

毎晩、寝るときに、今日も一日生きたことに感謝して寝ましょう。

私たちは、強大な地震と津波で多くのものを失ってしまいました。

でも、あなたはひとりぼっちになったわけではありません。

あなたが亡くした愛している人たちは、お父さんも、お母さんも、今もあなたの中に生きています。

そして……、つらいけれど、我慢して……。

「一緒に新しい日本を建設しよう」と、あなたにささやいています。

あなたの手で新しい日本が創られるのです。

胸を張って大きな深呼吸をして、

みんなの夢を叶える人生に進みましょう!

夢を持とう!

オノ・ヨーコ  
2011年3月25日



東日本大震災の被災者を支援するためのチャリティコンサートが3月27日夜、ニューヨークのクロンビア大学でありました。ヨーコさん(右)をはじめ、息子のジョンさん(左)らが参加しました。売り上げの約3万3000ドル(約270万円)は全額、寄付されます=ロイター

### ひとりで見る夢はただの夢、みんなで見る夢は現実になる

ヨーコさんは、詩や音楽、造形作品などを通して、世界に向けて愛と平和のメッセージを送り続けているアーティストです。イギリスのロックバンド・ビートルズの元メンバー、故ジョン・レノンさんはヨーコさんの詩を読み、名曲「imagine」を作りました。2人はその後、結婚。お互いをパートナーと呼び、創作活動を続けます。しかし、1980年12月8日、ジョンさんはファンに銃で撃たれて死んでしまいます。毎年ジョンさんの命日には「ドリーム・パワー

ジョン・レノン スーパー・ライヴ」が日本で開かれます。「ひとりで見る夢はただの夢、みんなで見る夢は現実になる」と、みんなが幸せを思い描き、平和への夢を持つことの大切さを呼びかけています。このコンサートで集まったお金は、発展途上国に学校を作るために使われています。

地震という大災によって混乱する日本。そして、人間の争いが生んだ2011年9月11日の同時多発テロから10年の今年、平和について考えてみましょう。

### 夢の力で学校を贈る

## 10年間で28の国に107校

## Dream Power ジョン・レノンスーパー・ライヴ

世界の子どもたちに学校を贈ろう!

このコーナーでは、音楽の力で世界の国に学校を贈る「ジョン・レノン スーパー・ライヴ」の活動をレポートします。『毎目ひと誰かを喜ばせることをやりましょう。それだけで世界を変えていくことができるんです』。2010年12月8日、日本武道館で1万2000人の観客が集まったコンサートが開催されました。出演者は、世界的に知られている芸術家のオノ・ヨーコさんや日本の有名な歌手や俳優です。コンサートでは愛と平和の大切さを生んだ歌やレノンの手、故ジョン・レノン(元ビートルズ)の歌が演奏され、出演者は夢を持つことの大切さを語り、観客の心には「愛と平和」、そして「夢」のメッセージが残りました。このコンサートは「ドリーム・パワー」ジョン・レノン スーパー・ライヴ」という、世界の恵まれない子どもたちに学校を贈るためのチャリティです。

世界には学校が学びたくても、学校がないために、通えない子どもたちがたくさんいます。戦争で学校が壊されたり、貧困のために学校が足りなかったり、その理由はさまざまです。そんな子どもたちに学校を贈ろうと、2001年から毎年このコンサートは開催され、昨年、10回目が行われました。これまでに建てられた学校の数は、世界28の国に107校になります。中心人物のひとり、ジョン・レノン夫人のオノ・ヨーコさんは「みんなで夢を見るのが大切だ」と、コンサートで呼びかけました。学校に通いたいという世界の子どもたちの夢、その子どもたちが勉強できるようにお手伝いしたいという観客や出演者スタッフの夢……。一人一人の夢がひとつになって、新しい学校が世界中に建設され続けているのです。(ドリーム・パワー「ジョン・レノン音楽祭事務局」・浜田哲朗)



タンロン小学校  
2001年のライヴで支援

「新しい学校はとてもきれいです。新しい机やイスもあります。黒板も新しく、扇風機もあるし、電気もあって教室は明るいです。私は一生懸命勉強して、いい生徒になれるようがんばります。こんなにすてきな学校を建ててくれたことを、ほかの生徒たちを代表して、お礼を言いたいです」  
——ランちゃん(11歳の女の子)

## 世界史の現場で

【2001年 アメリカ同時多発テロ事件】

**アメリカ**

ニューヨーク  
ワシントンD.C.  
メキシコ

国名	アメリカ合衆国
首都	ワシントンD.C.
面積	約962万9091平方キロメートル
人口	3億914万人(2010年推定)
現地通貨	1ドル=約81円

歴史上、世界ではいろんな出来事が起こりました。その現場の今を紹介します。

## 強大国の時代が終わる

2001年9月11日午前8時46分。アメリカのポストン発ロサンゼルス行きの旅客機が、ニューヨーク・マンハッタンの世界貿易センタービル(WTC)に突入しました。「アメリカ同時多発テロ事件」の始まりでした。その後、さらに3機の旅客機がWTCやワシントンの国防総省に突入しました(1機はワシントン郊外に墜落)。乗員乗客だけでなく、WTCや国防総省で働く人々や救助に駆け付けた警察官や消防士ら約3000人が死亡しました。日本人も24人が犠牲となりました。飛行機を乗っ取って突入させたのは「アメリカがイスラム教徒を迫害している」と訴えてアメリカを敵視していたイスラム過激派「アルカイダ」の人々でした。アメリカはただちに反撃。翌年の10月に、アルカイダのメンバーを引き渡さなかったアフガニスタンを北大西洋条約機構(NATO)の国々と一緒に攻撃し、タリバン政権を倒しました。03年3月には、イラクも「ミサイルなど禁じられた大量破壊兵器を製造している」と主張して、イギリスなど

2つのタワーが燃え、崩壊しました=A P

世界貿易センター跡では10周年を自指し、記念博物館や新しいビルの建設が進みます=2010年9月、寺本敦子さん撮影

と一緒に攻撃し、フセイン政権を倒しました。この反撃によって、かえって世界のあちこちで爆弾テロが起きるようになりました。アメリカ軍はアフガンやイラクからなかなか引き揚げられず、豊かだった経済状況はどんどん苦しくなってきました。アメリカがただ一つの強大国だった時代は終わり、中国やロシアなどと相対して世界を動かしていく時代になろうとしています。そのきっかけとなったのが、この事件です。【ニューヨーク・山科武司】

おすすりサイト ニューヨーク観光公式サイト <http://www.nycgo.com/ja/ref=japanese>

近くの子ども、遠くの子ども

## Children Near and Far

イギリス・ロンドンに住む写真家、キャロライン・アービーさんは、世界中の子どもたちや、イギリスで暮らす移民の子どもたちを撮影しています。

戦争を逃れてきた子、赤ちゃんのころからイギリスで育ちながらも、母国の誇りを忘れない子——。キャロラインさん自身、2歳まで香港で育ったこともあって「違いがあるからおもしろい」と興味を持ったそうです。

これまでキャロラインさんが出会った子どもたちを紹介합니다。

キャロライン・アービー  
Caroline Irby

ドキュメンタリー写真家。1977年香港生まれ、その後ロンドンで育ち、現在ロンドン在住。作品制作のため幅広く世界を旅する。

<http://www.carolineirby.com>

## Aura, born in Guatemala, now living in Oxford, UK

8year old Aura was born in Guatemala but now lives in Oxford, UK, with her adoptive family. She tells her story in her own words:

"I only remember that I was born in the mountains. My actual parents couldn't look after me cos I was their seventh child, then I went to an orphanage. My parents now were looking for another child to adopt and they saw a picture of me, and they came to visit and took me home.

I am Guatemalish and I do think about it: like if I did stay there, what I would be doing? Probably making bracelets or working in fields."

グアテマラで生まれイギリス・オックスフォードで暮らすアウラ

8歳のアウラは、グアテマラで生まれました。養子にもまれて、今はイギリスのオックスフォードという町で暮らしています。祖国は山に囲まれた場所で、7番目の子どもとして生まれました。本当の親は面倒を見られなくな

て、アウラを孤児院に預けました。養子を探していた今の両親がイギリスまで連れて帰ってくれました。「私はグアテマラ人です」とアウラ。「もしグアテマラに残っていたら、ブレスレットを作ったり、畑で働いていたのかな」 ※日本語訳は、要約です。